

# 風土記の丘の花だより<sup>131</sup>

## 今、そしてこれから見られる植物(2022年4月23日)

新緑が目まぶしく、山を歩くのには最適の季節になりました。草木の花も次から次へと咲いてきています。



この写真をご覧になって、「またタンポポか」と思われた方も多いのではないのでしょうか。でもこの花はタンポポみたいですが、イワニガナという草花です。タンポポより花茎が細く、それが枝分かれして2, 3輪の花が咲きます。ほっそりしていて、全体的にポリウムに欠けます。別名をジシバリともいい、「地面を縛る」という意味です。名前のお通り、茎を伸ばして地面に生え広がります。



続いて黄色い花です。万葉植物園に植えられているエンコウソウです。キンポウゲの仲間の水生植物です。2012年の和歌山県のレッドデータブックでは、絶滅危惧ⅠA類に指定され、ごく近い将来において、野生での絶滅の危険性が極めて高いとされています。栽培して種を保っていくことも大切なことです。



またまた3つめも黄色い花です。このウマノアシガタもキンポウゲの仲間です。上のエンコウソウと比べると確かによく似ていますね。葉や茎には毛が多いですが、花びらはテカテカしたつやがあります。同じキンポウゲ科の草花ではキツネノボタンや、水辺にはタガラシもよく見られます。そう言えばみんな黄色いですね。



ここまできたら、4つめも黄色い花にします。これはオヘビイチゴの花です。風土記の丘ではそれほど多くありませんが、珍しい植物ではありません。この仲間の花はどれもよく似ていてパッと見ただけでは分からないこともよくあります。生え方や、葉の様子などもよく見て、植物図鑑やスマホの画面とにらめっこしながら、観察してみてください。「これだ!」と分かったら嬉しいですね。

松下